

邦楽雛子による江戸まつり

創作曲「まつり」 作調

藤舎呂英 福原徹彦

雛子 藤舎呂英

藤舎呂秀

藤舎呂裕

福原百之助

梅屋喜三郎

笛 福原徹彦

この曲は日本舞踊の創作作品として作調した曲ですが、今回の公演ために演奏曲として編曲いたしました。最初の場面は夏の朝、遠く近くに水の音が聞こえている風景から始まります。朝日の光が次第に輝きを増してゆく中、道にずらりと神輿が並び、一人また一人と神輿渡御に携わる自のパツチに白腹巻、祭り半纏や鉢巻といった凜々しい町内の若い衆が、路地から現れる風景を描きます。

さて、お祓いを受け、いよいよ祭りの始まりです。太鼓や笛の音が気分を高揚させていきます。太陽の下で恍惚に誘う激しい鳴物、立ち上がる熱気と、激しく燃え上がった人間の精気が漲る情景を表現します。

やがて夕刻に近くなると神輿は帰路につききます。若い衆の疲れもピークに達し、熱気に包まれた祭りの覇気は次第に静まってきます。日は西に傾き、風も幾分か爽やかになつてきますが、まだ暑さの淀んだ空気が辺りに重く漂っています。重くなった歩みを進め、朝出た町をめぐり、最後の場面へ。いよいよ町へたどり着きます。最後の力を振り絞り、鈴の音を鳴り響かせ、威勢のよい掛け声と共に神輿は軽やかに空を舞いつつ、クライマックスとなります。

作調するにあたり、祭雛子のフレーズを出来るだけ使わず、邦楽雛子オリジナルのフレーズを考え、独自の祭を表現することを目指しました。皆様に「まつり」を思い浮かべてお楽しみいただければ幸いです。